

松山分水問題に関する 提言書が提出されました

県営西条地区工業用水の松山市への一部分水問題で「県営西条分水松山分水問題を考える市民の会（29団体）」（神野顕彰会長）から、1月22日（月）に「分水については強く反対すべきである」との提言文が、伊藤市長と高橋市議会議長に提出されました。

- ▶市長と議長に提言書が手渡されました。
- ▼提言を述べる市民団体の代表。



松山市長が 1年ぶりに西条市を訪問

分水問題は、まず3市で話し合うことに



【上写真】合同記者会見の様子
【左写真】会の冒頭、松山市長が来庁のあいさつ

黒瀬ダムを水源とする県営西条地区工業用水の松山市への分水問題で、松山市の中村時広市長と松山市議会の宇野浩議長が1月29日（月）、1年ぶりに西条市役所を訪れ、伊藤宏太郎市長、高橋和寿市議会議長と分水についての協議を行いました。

会議の冒頭、中村市長は「可能ならば分水をしてほしいという立場であり、何らかの窓口が開かれればと願っている」とあいさつがありました。

会談の結果、伊藤市長は「まずは西条工水の給水区域である新居浜市を含めた3市間でテーブルを設け、きたんのない議論をした方がいい」と提案し、中村市長もこれを了承しました。

四国鉄道文化館 (原簿)

建築こぼれ話 ④

往年の名車

「DF50形」がやって来る！

▶JR四国多度津工場で動態保存されている「DF50形」



日本が高度経済成長への道を走り始めた昭和30年代、人々の生活にもゆとりが生まれて、レジャー・ブルムがわき起こりました。

それとともに、鉄道を利用する人々の数も、急激に増えていきました。そうした中、四国のように鉄道の電化が進んでいなかった地方の路線では、相変わらず蒸気機関車が客車や貨車を引っばっていました。

このDF50形は、ディーゼルエンジンで発電機を動かして、さらにそれでモーターを回して走るしくみとなっていました。

DF50形は昭和32年に、香川県の高松機関区に、1号機と2号機が配置されました。

そして、昭和58年に運用が停止されるまでの間、予讃本線をはじめ、北海道を除く全国各地の路線で活躍するとともに、鉄道の無煙化にも大きく貢献しました。

今、香川県にあるJR四国多度津工場で、DF50形の1号機が動態保存されていますが、この車両は昭和58年に「準鉄道記念物」にも指定された、大変貴重な車両でもあります。

四国鉄道文化館が完成すれば、この「往年の名車」が西条に移される予定です。

なお、JR四国によれば、このDF50形の1号機をデザインとして使用した「オレンジカード」が、3月1日から販売されるそうです。